

じ ぐち あん どん え ま 地 口 行 灯 と 絵 馬



▲祭礼で軒先にかけられた地口行灯



▲付木絵馬 (初代吉田東斎作)

地口行灯とは、駄落の一種である言葉遊びで、ことわざ・格言・有名な芝居のせりふなどを似た音に置き換え、それに合わせた滑稽な画を描いたものです。地口は行灯の形態に仕立てられ、祭りなどで境内や参道に飾られます。千住でも、神社の祭りや勝専寺の閻魔詣の他、旧日光街道沿いの商店街でも見ることができます。

区内の地口行灯は、千住四丁目の吉田絵馬屋が手がけています。江戸中期に際物(季節の縁起物)問屋として開業し、絵馬・行灯・凧などを作ってきました。当代で八代目で、現在でも手書きで地口行灯や絵馬作りを行っています。絵馬には屋根型の木枠がついていて、それぞれの神の使いや祭神を描き分けています。



▲一玉斎「十二月ノ内 きさらき」文久二(1862)年



▲吉田絵馬屋(千住4-15-8)。旧日光街道沿いに面しています。



▲地口絵紙の製作



▲長円寺めやみ地蔵(千住4-27-5)